



全校生徒を対象に「国際理解教育」に関わる講演会を実施しました

目的 普段から学習する「農業」が「国際協力」や「SDGs（持続可能な開発目標）」に結びつくことを理解するとともに、専門的な知識を深め、農業の国際的な面や開発への協力意欲を高める。

日時 平成31年3月18日（月） 11:00～12:50

場所 本校 大体育館

講師 JICA 国際協力機構農村開発部
乗松 諒 様

演題 「ガーナで国際ボランティア

～共に汗を流した2年間～」



講演の様子①

生徒の感想 ○ボランティア活動は自主性と継続性がなければいけないと思った。

○協力することを大切にしながら、今後の生活や学習に取り組んでいきたい。

○高校で農業を学んでいることをありがたく思った。

今は実習を頑張っていきたい。



講演の様子②

成果 JICA 青年海外協力隊として、派遣先ガーナにおける農業指導をはじめとした国際協力について、クイズ形式のアイスブレイクや現地の実態を動画紹介するなど、生徒を引き付ける内容であった。国際協力の必要性や難しさ、海外に出ることの面白さなど生徒へ広い視野を持たせるきっかけとなる講演であった。

今後の課題 今回の講演について振り返りの機会を設けることで、さまざまな視点から農業への興味や関心、理解を育み、生徒の進路に関して幅広い視野を持たせていく必要がある。

講師の助言

- ・みんなで協力する（助け合う）ことの大切さを高校生活で培ってほしい。
- ・自分のやりたいことを懸命に探してほしい。やらされ感では仕事は続かない。
- ・間違っても伝えようとする気持ちが大事。まずは自分から話しかけること。